

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

# YMCA

## 大阪青年



月刊 The YMCA 付録  
 編集・発行 / 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7番地  
 大阪青年 発行: 末岡祥弘 編集: 大阪YMCA広報室  
 〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6  
 TEL06-6441-0894 FAX06-6445-0297  
 URL: http://www.osakaymca.or.jp/  
 (年10回発行) 1947年10月27日 第3種郵便物認可



タイ・ボランティアツアーにて

日本の社会は、モノの豊かさを追い求め、経済成長への道をひたすら走ってきた。その目標は1980年代にほぼ達成された。その過程で、人々は地方の生活を捨て、都会に住み、核家族が顕著となった。その結果、大家族の崩壊と高齢化と少子化がもたらされ、隣近所という身近な地域社会の関係は希薄になり、家族内の孤立化も進んでいる。

21世紀になっても日本社会は、いまだにモノの豊かさを追い求める欲望を肥大させ、金融バブルに踊らされて、そのあげく急激な不況に陥っている。私たちが次の明確な目標を共有できないまま、経済的繁栄の幻想を貪っているうちに、教育・医療・介護という安心と安全を守る分野は疲弊し、特に子どもたちや若者たちを取り巻く環境は著しく劣化している。

核家族化が進んだ果てに、祖父母や叔父叔母といった存在は、子どもの日常的関わりから切り離され、両親とも関わりが希薄になり、学校も子どもたちの安心と安全を保証してくれない。ましてや地域社会はモノが溢れているが、生身の関わりを体験する場所ではなく、外に出ることもできず、子どもたちは自分の部屋に、自分の世界に閉じこもり、自らの感性をひとりで研ぎ澄ましている。

### 未知の世界に挑戦する

### 「安心と安全の基地」を

大阪YMCA協力会員 長尾 文雄

今の子どもたちの求めているものは昔と変わらず、夢と希望を求め、生きる意味や生き方を探し、他者と生身で関わる場所へ旅立つことを願っている。しかし、自分の感性を信じて、悩むことや揺らぐことを許される時間も空間もない。考える手がかりもなく、試してみるにも足場がない。夢と希望を育み、生きる意味を見いだすために、安心と安全を保証する「基地」を今の子どもたちは奪われているのだ。

「ここに居ていいよ」「そのままの自分でいいよ」「なにを言ってもいいよ」「やりたいことをしていいよ」という無条件の承認を行う「基地」。それが若者に安心と安全を確保する「居場所」である。

「居場所」は、子どもたちの兄や姉としての若者を含む大人たちが、中心になって空間(場)と時間を準備し、孤立している子どもたちを招き入れ、安心と安全の場であることを実感してもらおう。そこから子どもたちの生身の関わりが生まれてくるのだ。

この場合は、子どもたちの感性を信じ、待つことを基本とした場であり、大人たちは教えるとか指導するとかのお節介を慎むこと。子どもたちが心を動かし、行動を起こすことを静かに見守っていく。何かをやり始めるときに、必要とすることをそつと子どもたちに差し出す。これが大人の役割である。そして、じっくりと子どもたちの自発性の発芽を観察するまなざしを注ぐこと、大人自身も一人の人間として自らの生きた物語を、誇りを持って語ることだ。

この「居場所」は、子どもたちを囲い込む場ではなく、彼ら・彼女たちが未知の世界に旅立つていく「基地」である。そのために、夢と希望を描き、自分の存在を肯定し、他者との関わりの中に出発する勇気を身につけることだ。一人ひとりの子どもが当事者となり、自分のペースで感じたり、考えたり、人と関わる体験をする時間と空間がなんとか確保され、そして大人は応援団として存在する場所があれば、子どもたちは心のエネルギーを蓄え、未知の世界に旅立つことであろう。これが子どもたちの出発基地となる「居場所」である。

#### 地の塩

▼CO<sub>2</sub>の削減が叫ばれている。CO<sub>2</sub>を削減するため、あれこれ方策が取られている。CO<sub>2</sub>を出さないようにといわれると、いかにもCO<sub>2</sub>が悪者のように思えてくる。しかし、CO<sub>2</sub>がなくなったら、きれいな花もおいしい野菜も育たない。人の体にしても、CO<sub>2</sub>が多い所では呼吸作用が促進されて、私たちの命を守る仕組みになっている。氷菓のお土産に入れるドライアイス(CO<sub>2</sub>)を固体にしたものは、柿のしぼを抜くにも使われる。砂糖の取り過ぎが体に悪いと言われると、極端に糖分を控えようとする。しかし、甘いものも脳の働きには必要。コレステロール値が気になっても、時にはお肉も食べねば元気が出ない▼人間が自分たちの都合ばかり考えて、全体のことを考えないから、地球のバランスが崩れておかしなことになってくる。最近、植物の力が見直されてきた。植物は私たちの体を支える重要なものだが、食べ物としての植物だけでなく、心や体を正常な姿に修復してくれるものとして再認識されている。心身の癒しによいとされる▼自然を大事にしよとか、自然を守れとは古くから言われてきた。それは真実で、この宇宙、地球を創造された方は全てのもの、調和できる仕組みを持つものとして造られた。聖書には神が地球を造られたとき、「それは極めて良かった」(創世記1:31)と書かれている。「宇宙創造の意図は何か」に思いを馳せ、「創造の秩序」を考える時、地球のあるべき姿が少しずつ解明され、我々の取るべき姿勢が是正されていくのではないかと思う。(五)